



芦屋市立美術館は2021年3月に開館30年目を迎えます。

30年という時間の中で、当館は優れた作品を多く収蔵してきました。

この度、当館を形作っているコレクションの全作家126名の作品群から、

小説家の福永信氏が選んだ約180点の作品を展示し、

芦屋ゆかりの美術の歴史と芦屋市立美術館が歩んできた時間をご覧ください。

そして、コレクション作品の新鮮な見方と新しい出会い方を見つけていただければ幸いです。

## /見どころ紹介/

▼本展は、面白いアイデアを考えつくことにかけては日本一の才能、小説家の福永信さんにご協力いただきました。

▼当館コレクションの全作家126名の作品約1460点の中から、福永信さんが選んだ約180点を展示します。

1991年の開館から約30年、全作家を一同に紹介するのは初めての試みです。

▼twitterで展示作品の解説を毎日投稿します。会期中の毎日2回、展示作品の解説をtwitterに投稿します。

遠く離れた場所からも当館コレクション作品の魅力をお楽しみください。

▼各作家のキャプション解説の「掲示替え」を行います。

前期：9月19日（土）-10月11日（日）、後期：10月13日（火）-11月8日（日）

\*作品の展示替えではありません。同じ作品の違った見方、感じ方の一助になれば幸いです。


なお、チケットの半券をご提示いただくと、団体料金でご鑑賞いただける、リピート割引をご用意しました。

▼本展では予告編や展覧会を紹介する動画を配信します。8月上旬より順次配信予定です。詳しくは当館HPをご覧ください。

▼本展をより楽しんでいただけるよう、子ども用ワークシートをご用意します。

もちろん、かつて子どもだった大人の方にもお楽しみいただけるよう、福永信さんと一緒に作っていきます。

## /会期中/こんなことやります！

その /1/ 

毎日2回、展示作品の解説をツイートします。作品の画像や映像をまじえながら、臨場感あふれるツイートを目指します。

\*少人数での作業になりますので、遅れることがあるかもしれませんが、できるだけがんばります。

その /2/

各作家のキャプション解説の「掲示替え」を行います。

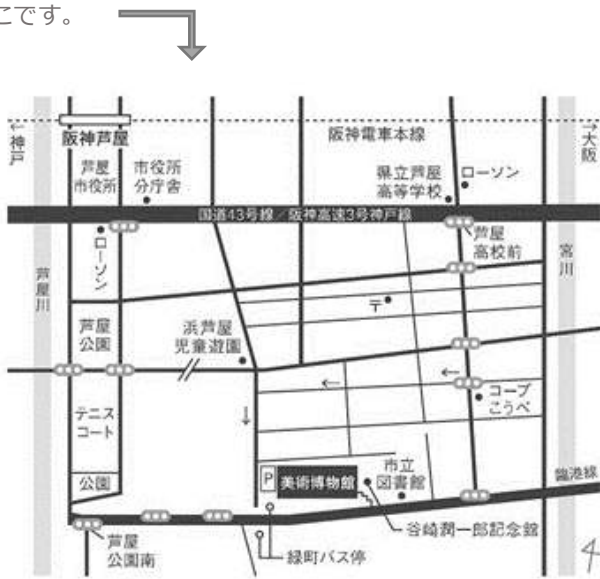
\*作品の展示替えではありません。同じ作家、作品の、違った見方、感じ方の一助になればうれしいです。

前期：9月19日（土）から10月11日（日）

後期：10月13日（火）から11月8日（日）

芦屋市立美術博物館、どこにあるか、ご存知ですか？

ここです。



駅からわりと遠い、そんな印象をもたれるかもしれません。

でも、芦屋川に沿って進む美術博物館への道のりは、とても気持ちがいいんです。

ひとりで気楽に時間を過ごす、お散歩のような楽しさがあります。

今から100年ちょっと昔には、このへんのどこかを、小出楯重も歩いていたでしょう。

今から70年くらい前に結成されたアーティスト集団「具体美術協会」（具体）、その中心メンバー吉原治良の家も、この近くにありました。

芦屋公園では、「具体」の野外展覧会も開かれていました。

小出楯重、吉原治良以外にも、多くのアーティスト達がこの地に暮らし、語り、作品をつくっていました。

時間が少し違うだけ、ほとんど同じ地域で、自由で斬新な表現を、アーティスト達は、追求していたんです。

今からちょうど30年前、芦屋市立美術博物館ができました。

30年という時間をかけて、地域も超えて、たくさんの作品が集まってくれました。

そして、今、唯一無二のユニークなコレクションを形づくっています。

当館のコレクションを支える作家は、126名にも及びます。

「芦屋の時間 大コレクション展」では、開館からの歴史で初めて、すべての作家が登場します。

できるだけたくさん、作品を並べます。

「お、こんな作品があったのか」というような、初めての出会いもあるでしょう。

また、「いつも見てる」とか「もう見飽きた」と思った作品が、あらふしぎ、いつもと違ったように見えてくるかもしれません。

多くの作品と出会うことで、いつもと違う、作品の表情が見つかると思います。

これが限界、もうムリ、というくらい、たくさん展示しますが、そんなことをするのは、初めてのことです。

なんでそんなこと、したいんでしょう。

「作品なんて、いつでも見られるじゃないか」という考えに抗いたいからです。

確かに、すべてこの館に収蔵されているんですから、収蔵庫から出して見れば見られます。

また、今後も、同じ作品を見る機会はあると思います。

いつでも見られる、という言い方は、ある意味で、その通りなんでしょう。

でも、「いつでも見られる」にしても、「もう二度とない」だろうこのような展覧会に並ぶと、それは「今しか見られない」表情を持つんじゃないでしょうか。

孤高の、とっつきにくいと思ってた作品が、このにぎやかな展覧会の中で見ると、案外、優しい、親しげな側面があることに気づくというようなことが、あるんじゃないでしょうか。

あるいは、たくさんの作品の中で、ふと、「何度も見てきたけど、お前さん、意外と小さいんだな」と、そんなふうに、作品に語りかけるような、親しげな気持ちに自分自身になるんじゃないでしょうか。

収蔵作品は、新作だった時代の、イケイケだったその時の文脈から断ち切れて、収蔵庫の中で、大事な部分だけを残し、むしろ作品として研ぎ澄まされて、今、生きている私たちに見られるのを待っています。

新作だった時には見つからなかった「新しさ」を見つけてくれるのを、作品たちは、今か今かと、待っています。

だから、これまで何度も来たよ、という常連さんも、初めて行くねというかたも、大歓迎の展覧会なんです。

時間をかけて見てもいいし、全体を、ざっと眺めるだけでも、面白いかもしれません。

いずれにせよ、にぎやかで、楽しい展覧会です。

散歩にもぴったりの季節、ぜひ遊びにいらしてくださいね（ひとりで見に来てても、さみしい気持ちになりません）。

福永信

---

## 福永信（ふくながしん）

1972年生まれ。小説家。主な著書に『星座から見た地球』（2010）、『————』（2011）、『実在の娘達』（2018）など。『こんにちは美術』（2012）、『絵本原画ニャー！ 猫と歩く絵本の世界』（2019）などの編著も。2015年、早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞受賞。主な企画協力した展覧会に「ねこかしら おかざき乾じろドロイング」（誠光社/2019）、「一日だけの展覧会/芦屋の近代 現代のとりくみ- 当館コレクションより」（伊藤存、伊達伸明、中村裕太と共同/芦屋市立美術館/2018）、「大★須永有展 美と微と bi☆to の原寸大」（「本と美術の展覧会 vol.1 絵と言葉のまじわりが物語のはじまり」内での個展/長嶋有と共同/太田市美術館・図書館/2017）「カワイオカムラ ムード・ホール」（金氏徹平と共同/京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/2016-17）などがある。

## 作家 126名

---

青山洋子/東 貞美/蟻田 哲/粟津 潔/飯島一次/飯塚二郎/伊藤継郎/井上覺造/今井俊満/今井祝雄/植木 茂/上前智祐/上羅芝山/浮田  
要三/瑛九/江見佳彦/大植基正/大西博文/大橋エレナ/大橋洋子/大橋了介/荻須高德/小野田 實/片岡真太郎/金山 明/上山二郎/鴨居  
玲/川崎ヒロ子/菅野聖子/聴濤襄治/喜谷繁暉/木梨アイネ/木下あづさ/木村 敏/清水九兵衛/国枝金三/黒田重太郎/小磯良平/小出卓  
二/小出樫重/小出泰弘/高麗清治/小杉武久/近藤南海子/坂本昌也/嶋本昭三/白髪一雄/白髪富士子/菅井 汲/杉浦康平/鷺見康夫/関  
根美夫/田井 智/高岡徳太郎/高崎元尚/田中敦子/田中さつき/田中哲子/田中竜児/田村孝之介/津田青楓/津高和一/坪内晃幸/戸谷成  
雄/中川佳宣/仲田好江/中村錦平/中村徳次郎/名坂千吉郎/名坂有子/鍋井克之/長谷川三郎/ハナヤ勘兵衛/原田五郎/福井市郎/藤井  
二郎/藤田嗣治/舟越保武/古冢 新/紅谷吉之助/堀内正和/堀尾昭子/堀尾貞治/前川 強/正延正俊/増田正和/松井 正/松田 豊/松谷武  
判/松葉清吾/松原重三/三島喜美代/向井修二/村井正誠/村上公也/村上三郎/元永定正/柳原義達/山川健一郎/山口牧生/山崎隆夫/山  
崎つる子/山崎福之助/山下哲郎/山田皓斎/山田正亮/山根 耕/山内国夫/山本直治/遊上陽子/吉田一夫/吉田喜蔵/吉田稔郎/ヨシダミ  
ノル/吉原治良/吉原英雄/吉原通雄/淀井敏夫/渡辺信子/土佐派/作者不詳/狩野探雪/Bourdelle, Emile-Antoine / Joumard,  
Veronique / Nash, David / Oscar Pereira da Silva

## 展示数 約 180点 (予定)

---

---

企 画 大槻晃実(芦屋市立美術博物館学芸員)  
尹 志慧(芦屋市立美術博物館学芸員)

デ ザ イン 鈴木大義

撮 影 守屋友樹(写真家)

---

### 問い合わせ先

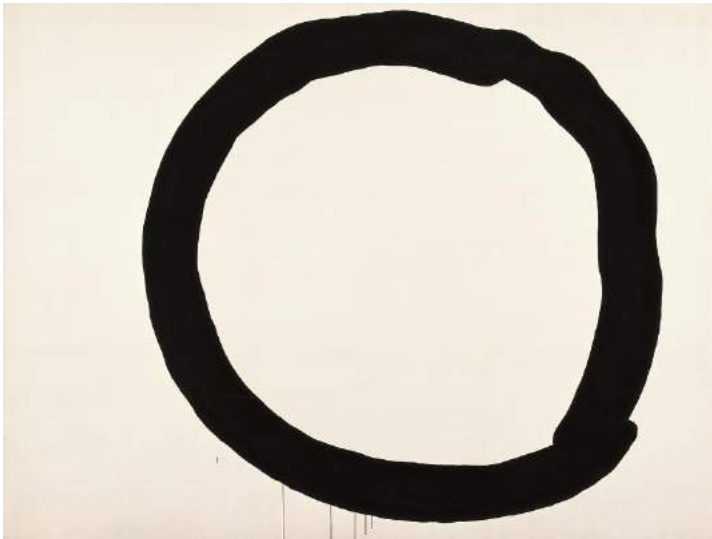
○企画内容に関して 大槻晃実・尹 志慧(担当学芸員) TEL: 0797-23-2666(学芸直通)

○画像貸出等広報について 総務課 TEL: 0797-38-5432(代表)

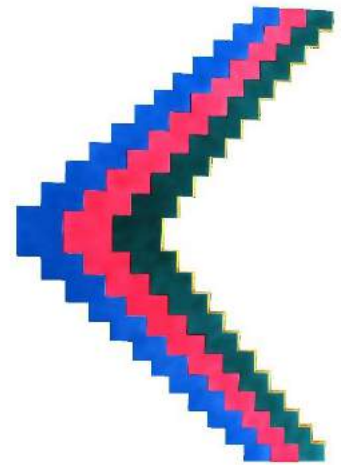
芦屋市立美術博物館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25

◇ホームページ: <http://ashiya-museum.jp/> ◇フェイスブック: 芦屋市立美術博物館 ◇ツイッター: @ashiyabihaku





1



2



3



4



5

【図版】

- (1) 吉原治良 《白地に黒い円》 1967年 油彩、布
- (2) 名坂千吉郎 《SERVOLUME3》 1967年 プラスティック塗料、鉄板、木
- (3) 元永定正 《作品》 1962年 油彩、水性樹脂塗料、綿布、板
- (4) 田中敦子 《作品》 1954年頃 インク、芯地、接着剤
- © Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
- (5) 聴濤襄治 《マックスウェルのこま》 1970年頃/1990年 ステンレス

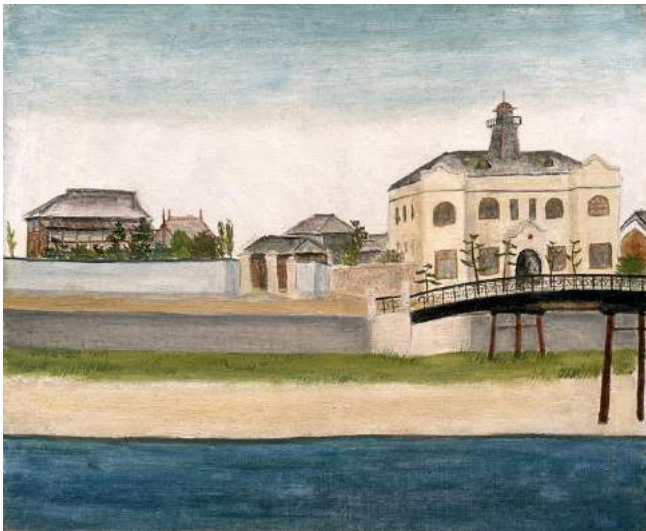
全て芦屋市立美術館蔵



6



7



8



9



10

- (6) ハナヤ勘兵衛 《嬢ちゃんの御帰り》 1936年 ゼラチンシルバー・プリント  
(7) 福井市郎 《猫をだく自画像》 制作年不詳 アクアチント、紙  
(8) 長谷川三郎 《芦屋浜風景》 1923年 油彩、布  
(9) 小出楯重 《ソファアの裸女》 1930年 油彩、ガラス  
(10) 植木 茂 《トルソ》 1980年頃 木

全て芦屋市立美術館蔵

芦屋市立美術博物館 画像借用申込用紙



FAX 連絡先  
0797-38-5434

ご希望の写真番号に○をつけてご返送をお願いいたします。  
本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組 20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にお申し付けください。

番号	作家名・作品名・制作年・所蔵元など
1	吉原治良 《白地に黒い円》 1967年 油彩、布
2	名坂千吉郎 《SERVILINE3》 1967年 プラスティック塗料、鉄板、木
3	元永定正 《作品》 1962年 油彩、水性樹脂塗料、綿布、板
4	田中敦子 《作品》 1954年頃 インク、芯地、接着剤 © Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
5	聴濤襄治 《マックスウェルのこま》 1970年頃/1990年 ステンレス
6	ハナヤ勘兵衛 《嬢ちゃんの御帰り》 1936年 ゼラチンシルバー・プリント
7	福井市郎 《猫をだく自画像》 制作年不詳 アクアチント、紙
8	長谷川三郎 《芦屋浜風景》 1923年 油彩、布
9	小出檜重 《ソファアの裸女》 1930年 油彩、ガラス
10	植木 茂 《トルソ》 1980年頃 木

\*全て芦屋市立美術博物館蔵

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
招待券希望枚数	組 名分希望

- 写真データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。
- 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(DVDなど)を当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。
- 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合には、事前にご連絡ください。



## 返信用紙

### プレスツアー 担当

FAX 0797-38-5434

### プレスツアー

|日時|2020年9月18日(金) 14時~16時(受付13時30分~)

|会場|芦屋市立美術博物館

|内容|企画協力の福永信氏(小説家)と担当学芸員が展覧会のみどころをご紹介します。

### プレスツアーに出席します。

※誠にお手数ですが、ご出席の場合のみ以下に必要な事項をご記入の上、

**9月11日(金)**までにFAXにてご返信頂きますようお願い申し上げます。

ご 芳 名

---

ご 所 属

---

ご 連 絡 先 TEL

FAX

---